

第63回 研究報告討論会

世界のエネルギーミックスと石炭の役割 ～逆風下にある石炭の位置付けを考える～

全体のまとめ

2017年4月18日

久谷 一郎

戦略研究ユニット 担任補佐

国際情勢分析第1グループ マネージャー

各報告のポイント

パリ協定後の世界における石炭の位置付け

- 石炭は、エネルギーを安定的かつ安価に供給するという観点から、特に自給率の低い国や所得水準の低い途上国における有効な選択肢。
- ただし気候変動や公害への対応で石炭利用への制約がさらに強まる可能性。
- 今後も石炭が利用され続けるためには、
 - ◆ 他のエネルギーに対する価格競争力を維持しつつ、出来る限り環境性能を向上。
 - ◆ 石炭のエネルギー安全保障上の意義や効果を、政策で明確に位置づける。

EUにおける『脱石炭』政策の背景と実情

- EUの「脱石炭」は、石炭関連対策の遅れや低炭素化政策の矛盾を背景に急展開。ただし国によって意味合いや影響は異なる。
- 日本は、石炭火力発電の先進性や3Eのバランス等、独自の事情をふまえれば安易な追随は合理性に欠くが、中長期の低炭素化の道筋の明確化が必要。

化石燃料投融資撤退『Divestment』の潮流 – 日本へのインプリケーション –

- 「脱石炭」の流れが資金・投資に移りつつあり、冷静な観察を要する。
- 「2°C実現への道筋と資金の流れを一致させる」というパリ協定、ならびにG20のもと情報開示の動きが進む可能性も。
- 個社を特定した批判が展開され、レピュテーションリスクを踏まえた対応(応答)も一考に値するか。NDC達成にむけた透明性の高い説明を。

まとめ

- 気候変動問題への関心が高まりつつあるなかで、パリ協定が新たな推進力に。



石炭は世界のエネルギー市場から退出することになるのか？

- 万能なエネルギーが世の中に存在しない中では、あらゆるエネルギーの得失を、国情に応じて適切にミックスすることが重要。
- エネルギー供給の輸入依存度の高い日本にとって、石炭のエネルギー安全保障上の価値は当面不変。この意味から、
 - ✓ 変化し続ける情勢を正しく理解することが必要。
 - ✓ 石炭の意義・NDCの達成に向けた努力を正しく伝えていくことが必要。
 - ✓ 情報の正確性を高めるための発信も必要か。
- ただし情勢の変化は速く、石炭をめぐる環境の変化と、再生可能エネルギーの技術革新(低コスト化、変動吸収技術)など競合するエネルギーの動向を注視し、柔軟に長期的な戦略を見直すことが求められる。

Thank you for your attention.



IEEJ was evaluated as the world's number 3 in the **energy sector** of the "**Global Go To Think Tank Index**" (published in Jan. 2017) announced every year by the University of Pennsylvania.

IEEJ has been ranked top for three years in a row.

(number 1 in 2015, number 3 in 2014)

"2016 Global Go To Think Tank Index Report" (p.80)

http://repository.upenn.edu/think_tanks/

We provide part of our cutting-edge research results on energy and the environment on our website free of charge.



IEEJ Website
<http://eneken.ieej.or.jp/en>